



Lions Club 332-E地区機関誌

Lion

最上川

No. 4

2025~2026



国際平和ポスターコンテスト地区最優秀賞（ガバナー賞）作品

◆ガバナー・テーマ

Unite for the Future!（未来に向かって、心を一つに!）

◆アクティビティ・スローガン

相互理解の精神で広げる奉仕の輪・人の和

新年のご挨拶

地区ガバナー L. 横山 昭子



新年あけましておめでとうございます。ガバナー就任以来、332-E 地区の皆さまには、地区運営と各種事業の推進に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年7月、アメリカ・オーランドにて開催された第107回国際大会において、A.P. シン国際会長から掲げられた「Lead to Serve, Serve to Lead（リーダーシップこそ奉仕、奉仕こそリーダーシップ）」の精神は、今年度の指針となるものです。そして、国際協会最大の挑戦である「Mission 1.5」、すなわち2027年までに世界の会員150万人を達成するという壮大な目標に向け、332-E 地区でも、GAT メンバー、ゾーン・チェアパーソン、クラブ三役の皆さまと共に、会員拡大とクラブ活性化に取り組んでまいりました。

5つのリジョンで開催されたガバナー公式訪問では、地域に根ざした奉仕活動の力強さ、そして各クラブが未来を見据えて活動を展開している姿に、改めて332-E 地区の可能性を感じました。

また、YCE サマーキャンプ、GST 会員満足度・献血・献眼推進合同セミナー、リーダーシップセミナー、ピンクリボンチャリティゴルフ大会、GLT・WYPT 合同セミナー、薬物乱用防止教育認定講師養成講座、献血推進研究会など、委員会の皆さまによる積極的な事業展開により、地区全体が大いに活性化しております。この場をお借りして、深く敬意と感謝を申し上げます。

迎えた新年は、まさに本年度後半戦のスタートです。会員拡大は Mission 1.5 に直結する最重要課題であり、とりわけ若い世代や女性の参画は、地区の未来を切り拓く鍵となります。

合わせて、LCIF 寄付へのご理解と協力もお願いしたいと思います。LCIF に100ドルを寄付すると、世界中の人に交付金を通じた支援を行うことができます。我々が現地に行かなくても、LCIF の交付金で温かい食事や、眼科検診、糖尿病スクリーニング検査、小児がん患者に付き添う家族の滞在场所、被災者に緊急援助を提供することができます。LCIF へのご理解と会員一人100ドル寄付へのご協力を、ぜひともお願いしたいと思います。

私が掲げるガバナーテーマ「Unite for the Future！～未来に向かって、心をついに！～」のもと、奉仕の輪と人の和をさらに広げ、次代を担うライオンズを共に作り上げてまいりましょう。

332-E 地区のさらなる発展と、皆さまのご健勝・ご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「GLT・WYPT 合同セミナー」を開催して

地区 GLT コーディネーター L. 酒井原 誠

先ず、GLT コーディネーターとしてその任をいただいて考えたことは、「リーダーシップとは?…」という事。そして次に「GAT の一員としてできる事は?…」という二点でした。当然のことながら、ライオンとしてのリーダーシップを聞く場面は多いのですが、それ以前に人として如何に輝き、尊敬されるべき人となり得るかが重要であると考えました。クラブに在籍することによって、自らを昇華させることが出来る団体である事は、「あの人とならば一緒に奉仕活動してみたい」「彼が在籍する団体ならば入ってみたい」「あの人たちのようになりたい」と、未入会の方々から評価されることに繋がり、ライオンズクラブの評価・品格も高めることに繋がります。

GLT・WYPT 合同セミナーの具体的な内容につきましては、初の試みでもあり多くのプランを考えましたが、主に女性会員の増強を言われている中、以下のように考えました。

- ① ライオンとしての自覚、リーダーとなるための研修。(地域社会に於いて尊敬されるべきライオンになる為のきっかけ作り)
- ② 女性ライオンの社会進出や、家庭・職域・地域における、品格・文化・ライオニズムの発信者となる為のヒント。
- ③ 家庭・家族内で共有できる内容とすることで、ライオンズクラブの活動に参加することに理解を深める。
- ④ 上記内容をミッション 1.5 に繋げる。

そして登録料はライオンのみ¥ 2,000 とし、知人友人等ノンライオンにも参加の声掛けをし、ライオンズクラブを知っていただくこと、入会を促しミッション 1.5 に繋がるよう考えました。

内容につきましては、極力ライオンズ用語を使わないで行う事とし、第一部を元地区ガバナー L. 伴和香子名誉顧問にお願いをし、「自分の個性を見つけよう 社会との繋がりを楽しもう」と題し、ご講演をいただきました。第二部は私が、「今さら聞けない…和文化マナーで品格UP」という内容で、研修を担当いたしました。

結果、セミナーの内容については多くの方に喜んでいただいたと確信しております。しかしながら参加 100 名を想定した中、総勢 74 名・内ノンライオン 13 名となり、募集方法を検討する余地はあると考えます。如何にして多くのノンライオンに参加いただけるか、ライオンとしてセミナーへの参加を重要だと捉えていただけるか、今後の工夫が必要です。

最後に、初の試みにご尽力いただきましたキャビネット役員・WYPT メンバー・事務局を含む多くの方々に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

「GLT・WYPT 合同セミナー」写真



薬物乱用防止教育認定講師養成講座

地区青少年育成委員会委員長 L. 齋藤 健太郎

「青少年育成委員会」という言葉の響きから連想されるのは、昨年度まで3年間関わってきたYCE事業でのサマーキャンプのような『自然体験や同世代交流事業を通じて子供達の成長に寄与する』活動であろう。しかし、実際ライオンズが行う青少年育成事業のメイン事業は『薬物乱用防止教育認定講師の養成と実践サポート』であり、実際に今年度担当委員長を拝命して、その理由を思い知らされた。

日本は諸外国に比べ大麻やドラッグ類の使用経験者の割合が著しく低い。しかし海外から相当量の密輸が行われているのは確かであり、それらがネットでの裏情報等を通じて人々の手に届きやすくなっている。そうすると国民一人一人の自制心を養う事が薬物乱用を防ぐ有効な手立てであり、実際日本においてその教育活動を地道に行い続けていることがギリギリのところまで社会に薬物が蔓延することを食い止めているのだ。

去る11月11日、山形市内にて今年度の薬物乱用防止教育認定講師養成講座を開催し、50名ほどのメンバーから受講して頂いた。講師としてお越し下さった（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター久枝悠人様を始め、山形県警察本部、山形県健康福祉部の方々のどれも危機感あり中身の濃いものであったが、認定講師として実践例を話して下さった横浜おとしりコスモポリタンライオンズクラブL.小池和子の話は、道を踏み外しそうな若者達の溜まり場に目を光らせ実際に対話した上での薬物乱用防止活動であり、ここまでののかと本当に敬服した。我々が出来ることは即効性はないかもしれないが、間違いなく社会に必要な一助となっている。その思いを忘れず活動を頑張りたい。



「令和七年度献血推進研究会」報告

地区献血・献眼推進委員会委員長 L. 京谷 吉雄

11月21日パレスグランデールにて、ライオンズ関係者50名、県・赤十字関係者18名、合計68名の参加で、令和七年度献血推進研究会が開催されました。席上、山形霞域LCと南陽LCに令和六年度の血液センター所長感謝状が贈呈され、活動の事例発表が行なわれました。

横山ガバナーの重点項目のひとつ『献血一万人運動の推進と若年層へのアピール』を提唱している中、昨年度は9,231名、今年度10月までで2,612名と若干出遅れているようです。これから寒い時期となり、増々減少が予想されます。各クラブ共、献血活動を奉仕の重要活動と捉え活発に取り組んでいると思いますが、会員企業や学校への働き掛けをもう一步踏み込んでいただき、献血一万人を達成出来ます様よろしくお願い致します。

さて、献血と同様に命に関わる奉仕活動の中に、骨髄バンクドナー登録があります。皆さん、血液はどこで作られているかご存じですか？ 血液は、骨の中（骨髄）の造血幹細胞が赤血球・血小板・白血球と言う血球細胞に分化して血液となり体中を巡ります。赤血球は酸素を運び、血小板は血を止めます。そして白血球はバイ菌をやっつけます。しかしその白血球が異常をおこし役立たずの白血球ばかりになるのが白血病です。最初は、化学療法・抗がん剤などで治まる場合もありますが、再発した場合骨髄の移植しか命を救う方法がありません。移植するには白血球の型 HLA が一致しないと出来ません。一致する確率は親子間ではほぼゼロ。兄弟間でも25%しか一致しません。そこで一般の方々から白血球のHLA型を登録してもらい、一致する患者さんがいれば骨髄を移植する。これが骨髄バンクドナー登録です。ドナーひとりで一生で2回しか移植する事が出来ません。登録出来る年齢は18歳から54歳までですが、ひとりでも多くのドナー登録が持ち望まれています。登録するには献血時に400ccプラス2cc多く献血する事でドナーの登録をする事が出来ます。4月の米沢での年次大会の献血会場でドナー登録会を計画しております。ひとりでも多くの献血、および骨髄バンクドナー登録をお願いして、献血推進研究会の報告とさせていただきます。



平和への願いを子供たちが表現 ～ライオンズ国際世界平和ポスターコンテスト～

マーケティング広報委員長 L. 村上 佳代

11月21日（金）、山形市のキャビネット事務局にて「ライオンズ国際世界平和ポスターコンテスト地区審査会」が行われました。今年のテーマは「ひとつになって」で、県内7校から125点の応募が有りました。本会は、11歳～13歳の子供たちに芸術を通して平和とは何かを表現する機会を提供するもので、40年近くにわたり開催が継続されております。

厳正なる審査の結果、地区最優秀賞（ガバナー賞）には米沢市立第二中学校1年生の鈴木琉空さんの作品が選出されました。（トップページ写真）選出の理由を横山昭子ガバナーは、「色々な民族の人が、四方から鉛筆を持ち地球の絵を描いているという、構図が新鮮。その鉛筆には、世界の国旗が描かれていて『世界中の人たちで、一緒に平和な世界を描いていこう！』というメッセージが込められている。このメッセージ性と面白い構図、色彩豊かな作品ということでガバナー賞に選んだ」と話されています。



- 地区最優秀賞（ガバナー賞）：米沢市立第二中学校1年生 鈴木琉空（りく）さん
- マーケティング広報委員長賞：酒田市立第一中学校1年生 土田奈乃葉（なのは）さん
- 優秀賞：米沢市立第二中学校1年生 伊藤滯（みお）さん
- 入選：米沢市立第二中学校1年生 小嶋すずさん
南陽市立宮内中学校1年生 佐々木ほのみさん
米沢市立第七中学校1年生 堤啓太（けいた）さん

今回の地区審査会で選ばれた最優秀賞（ガバナー賞）とマーケティング・広報委員長賞、優秀賞の3点は332複合地区に出展、東北6準地区から集まった作品の中で審査が行われ、その中の最優秀賞に選出された作品1点が国際本部へ送られ、審査されます。

受賞者の皆さま、おめでとうございます。来年も更なる応募に期待したいと思います。

追記

※その後、複合地区での審査の結果最優秀賞に選出されたのは、当地区にてマーケティング広報委員長賞を受賞した土田奈乃葉さんの作品で国際本部に送られたところです。おめでとうございます！



酒田山王ライオンズクラブ CN45 周年記念式典

酒田山王ライオンズクラブ会長 L.堀 多恵

この度 皆さまと共に山王ライオンズクラブ結成 45 周年を迎えられました事、とても嬉しく思います。

私たちのクラブは、創立以来、仲間と共に地域社会に貢献し、様々な活動を通じてライオンズとしての絆を深めてまいりました。

社会情勢 経済情勢の変化により会員減少をまねいてしまったという困難もありましたが、小回りのきく小さいクラブだからこそできることを見つけ 模索しながら活動してまいりました。ライオンズクラブの諸先輩のご指導や地域の皆様のご協力があったからこそと感謝の気持ちでいっぱいです。

わたくしは山王ライオンズクラブに入会して 22 年になります。

昨年おしくも他界した当クラブのリーダーとしてクラブを牽引して下さった伊藤誠ライオンからライオンズクラブの歴史や奉仕の精神を学んでまいりました。

そしてその意思は山王ライオンズクラブの真として受け継がれております。

姉妹クラブの大垣水都ライオンズクラブ様とは、松尾芭蕉の奥の細道が取り持つご縁で結ばれておりこの度の周年記念にいらしていただきました。

26 年前に大垣水都ライオンズクラブ様が 16 期の記念行事で酒田市飯森山に 淡墨桜を記念樹として植樹をして頂いた事を L. 伊藤誠からお話を聞き 綺麗な桜を見ながらライオンズの歴史をご教授いただいた事 素敵な思い出となり心に残っております。

昨年大雨で酒田市 遊佐町が被害を受けた際も大垣水都ライオンズクラブ様は、酒田市に心を寄せていただき多大なるご援助をいただきました。

このように我々小さいクラブですが姉妹クラブ様スポンサークラブ様また歴代キャビネットの皆さまとの 熱い絆で今まで活動することができました。

この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

これからも私たちは「We Serve」の精神を胸に、地域のために尽力し、より良い社会の実現に向けてメンバー全員力を合わせて皆さまと共に末長い奉仕の輪を広げ続けていくことを皆さまにお願いして日々邁進して行きたいと思っております。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



A.P. シン国際会長とタウンホールミーティング

鶴岡ナイスフェローライオンズクラブ会長 L. 兼子 陽子

10月27日に東京で行われた A.P. シン国際会長との、タウンホールミーティングに参加してきました。

全国各地から集まったライオンズクラブの仲間と顔合わせをし、国際会長からのお話、若手クラブ会員からの質問、たくさんの時間を、共有させていただきました。

とても勉強になりました。

- ・凝り固まった考え方ではなく、規則はあれどその中で好きにやっていいんだよ！
- ・クラブの人数も、ただただ増やすわけではなく、自分たちが運営しやすい人数を決めて活動してもいい。

…等々、いろいろやり方はあるから、一つの考え方にとらわれずやってみることも大事だなと感じました。

私が覚えて帰ってみんなに伝えるより、ボイスレコーダーで録音したら会長の言葉をそのまま届けられる！！と、録音したのはいいのですが、翻訳ができないというなんとも間抜けな……

翻訳しながら文字起こしできたら良かったなと思いました。

全国の皆さんとお話してみて、やはりどのクラブでも会員増強が大変だということでした。

- ・どんどん増やしても、出席率が悪い。
- ・納得して貰えないと会員になってもらえない。
- ・関わりを持ってもらえれば、入ってくれる率は上がる。
- ・皆さんはどんなアクティビティをしているのか。
- ・出席率が悪い

…に関しては、

- ・会費を払っているのであれば、例会の場所には来てなくても参加していると言う事になります。
- と国際会長が答えていて、なるほど……！！そういう発想……！！と思いましたね。

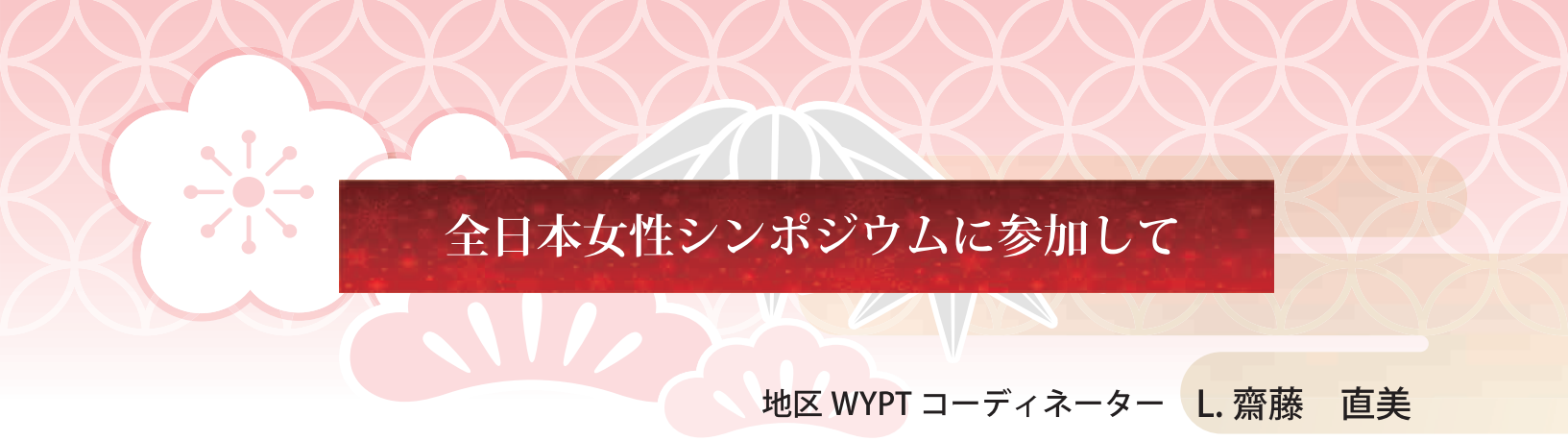
出席率はリモートでもいいんですよ。と。

柔軟な考えをもち、みんなで意見を出し合えば、なんとでもなるのかなと思い帰ってきました。

ご参考になれば…幸いです…

こんな感じで申し訳ないです m(_ _)m





全日本女性シンポジウムに参加して

地区 WYPT コーディネーター L. 齋藤 直美

2025 年（令和 7 年）11 月 19 日、ライオンズクラブ国際協会主催の「全日本女性シンポジウム」が衆議院会館にて開催され参加しました。

ワークセッションには、岡本三成議員（公明党）、野田聖子議員（自民党）、玉木雄一郎議員（国民民主党）、吉田はるみ議員（立憲民主党）の各氏が登壇され、女性リーダーの活躍推進について多角的な議論が行われました。

議員からは、政治を含む社会全体の環境を変え、意思決定権のある場に女性が参画する必要性が強調されました。また、「次の日本を再生するためには、教育・研究と経済を支える女性リーダーの発信が欠かせない」との意見も示され、当事者が決定権を持つ重要性を改めて実感しました。

さらに、会員増強を目指す“ミッション 1.5”に関連した事例紹介では、レオクラブによるスペシャルオリンピックス支援活動が紹介され、会場にも未成年のレオたちの姿もあり、主体的な社会貢献に強い感銘を受けました。